

ランチェスター法則発表 110 年によせて

～ その2～

第2の好運。デミング博士の協力

1945年8月15日、日本が戦争に負けたので、第2次世界大戦が終わりました。それからおよそ2カ月後の1945年10月24日に、国際連合が結成されたことで、世界には平和が訪れたかに見えました。

しかし間もなく、ソ連を中心にした共産主義陣営と、アメリカを中心にした自由主義陣営との対立が始まりました。それからおよそ5年後の1950年6月25日に、ソ連の支援を受けた北朝鮮が、南朝鮮の韓国に攻め込んで戦争が始まったのです。

この件があり、日本を占領していたアメリカは日本を強くし、「ソ連や中国への防波堤にすること」にしたのです。このあとアメリカは日本の産業を早く復興させるため、何人もの技術指導者を派遣しました。その中にいたのが、「統計的品質管理」で知られる、デミング博士だったのです。

①デミング博士がO・Rの本を3冊贈呈

デミング博士は、日本の製造会社に生産性向上と不良品を少なくする方法をアドバイスしたあと、役目を終えて帰国することになりました。帰国するとき、「オペレーションズ・リサーチを研究すると経営に役立つ」と言って、アメリカで出版されたこの題名の本を、日科

技連に3冊送ってくれたそうです。

この本は、プロジェクトチームに所属していた、フィリップ・モースとジョージ・キンボルが中心になり、国防省の許可を受けて、プロジェクトチームが考えて成果が出たものを紹介しています。

日科技連はすぐこの本の翻訳に取りかかり、1955年、昭和30年の9月に「オペレーションズ・リサーチの方法」の題名で出版しました。この本は専門書のため、価格は普通の経営書の2倍もしたのですが、とても多く売れたそうです。

その理由は、日本の社長や取締役、それに部長や課長など役職者のほとんどは「兵士として」アメリカと戦っていたからです。このときアメリカから無惨に負けたので、アメリカは「どのような戦い方」をしたか、それを知りたかったのでしょうか。

②O・Rの本でランチェスター法則が日本で知られた

この本の4章の「戦略力学」で、ランチェスター法則が詳しく説明されています。これにより、日本の社長や役職者にランチェスター法則が知られるようになったのです。

先ほど説明したように、こうなったのはデミング博士の協力があったからです。さらに作業現場の能率向上や不良品を少なくするのに欠かせない、「QCサークル」についての指導も受けており、これらは業績向上にとっても役立っています。

第3の好運。中原勲平氏が講演で法則を紹介

ここ迄にランチェスター法則が、日本にどのような経過をたどって

伝わったかについて説明しました。日本で「オペレーションズ・リサーチの方法」の本が出版されたとき、翻訳作業に関係された「中原勲平氏」は、そのあと「ガリ版で印刷したテキスト」を使い、ランチェスター法則の講演をしています。

その中に、競争条件が有利な会社はランチェスターの第2法則を応用して経営をすると有利になり、これを「強者の戦略」と表現しました。

次に競争条件が不利な会社は、ランチェスターの第1法則を応用して経営をすると都合が良くなり、これを「弱者の戦略」と表現しました。

現在多く使われている「強者の戦略と弱者の戦略」という、インパクトのある表現方法を最初に使ったのは、中原勲平氏だったのです。

O・Rの本が多く売れたのと、中原氏が講演をしたこともあり、大企業を中心にランチェスター法則がブームになったそうです。中原氏の講演を聞いたり講演用のテキストを見た人の中に、その内容を本で紹介する人がいました。

1人目は、東京で特許事務所を経営していた奥村正二氏です。奥村氏は「企業間競争と技術」の題名で1960年12月に、東洋経済新報社から出版しました。この本は共著になっており、奥村氏が1頁半ほどランチェスター法則について説明しています。

2人目は、東京大学で教授をしていた林周二先生です。林先生は「日本の企業とマーケティング」の題名で、1961年1月に日本生産

性本部から出版しています。この本では強者と弱者の競争をテーマに6頁にわたってランチェスター法則に関する記事が書かれています。

3人目は、九州工芸大学（そのご九州大学と合併）で教授をしていた池田一貞先生です。池田先生は「現代マスコミ統計調査論」の題名で出版しています。この本の中にランチェスター法則と、化粧品店の取引店数と市場占有率について書いています。

私は、奥村氏と林氏の2人の方に東京で直接面会し、「どのようなキッカケでランチェスター法則に関する本の記事を書かれたのでしょうか」と聞いたら、2人とも「中原勲平氏のテキストを見てから」と話されました。

林先生がランチェスター戦略の講演をしたとき、「田岡先生とは2度会った」と話されました。このように、ランチェスター法則が日本で広く知られることになった3つ目の好運は、中原勲平氏の講演とテキストにあったのです。

ちなみにランチェスター法則の研究者を世代別に分けると、ここ迄説明した人達が「第1世代の研究者」になります。

(続く)

Lanchester

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>